

続・狩りバチ観察記「寄生バエの襲来」 ヤドリニクバエの寄生行動

前号では、クモを狩るハチが獲物を巣に引きずり込む様子を紹介した。母バチは子供のための獲物（クモ）を運び、産卵してめでたしめでたし…と思いきや、実はそうでは無かったのだ！今回は、紙面の都合で前号に入らなかった『続・狩りバチ観察記－寄生バエ襲来編－』をお届けする。

2時間近く巣作りの様子を観察していた母バチがようやく獲物のクモを巣に運び入れようとした時、いよいよか、お疲れ様！と母バチ（とそれに付き合った自分）に賛辞を贈りながらカメラを握りしめた。巣穴に運ぶ瞬間を逃すまいと身構えた時、突如、どこからともなく1匹のハエが現れ、ハチの巣穴の上をホバリングし始めた。き、寄生バエの襲来だ！ぼくはこの時、ハチを見ていいのかハエを見ればいいのか、混乱した。動揺の刹那、ハチはクモを巣の中に一瞬で吸い込み、その上でハエが自分の子をボトボトと産み落とした。直後、ハチは土中の暗黒へ消え、ハエもホバリングをやめて近くの草に止まった。一瞬のできごとだった。なんと、寄生バエは母バチがせっせと巣穴を掘るところをずっと近くで監視していたのだ。そして、寄生のチャンスが来た瞬間、今だ！と飛び出してきた。す、すごいシーンを見てしまった…。しばらく動悸が収まらなかった。興奮したまま、後ろに唯一残っていたおじさんズのうちの一人に「すごかったですね！寄生バエ！」と言ったら、ほえ？ハエ？という呑気な顔をされてしまった。

この寄生バエ、どうやら「ニクバエ科」というグループで、狩りバチが狩ってきた獲物を横取りしてしまうようだ。もし母バチが、この寄生バエが近くにいることに先に気付いたら、作りかけの巣穴を放棄し場所を移動することもあるらしい。だから寄生バエは、母バチが土中に消えるその瞬間までじっと待機していたのだ。この巣穴では寄生バエの襲撃を受けてしまったので、おそらくハチの子は育たず、じきにハエが羽化して出てくるのだろう。ハチの「狩り」「運搬」「巣作り」「産卵」とハエの「寄生」。昆虫の本能行動を一気に観察できて、しばらく頭の整理が追いつかなかった。



Ⅰ. モンクモバチがナガコガネグモを巣穴に引きずり込む瞬間（前号の④と同じ写真）

モンクモバチは穴の中の育房に獲物を入れ、獲物の体表に一つの卵を産み付ける。これでめでたしめでたしと思いきや…



Ⅱ.（前号の④と⑤の間）寄生バエ登場！

モンクモバチが獲物のクモを土中へ引きずり込んでいく瞬間、突如ハエが現れ、ホバリングしながらハチの巣穴にボトボトと幼虫を産み落とした！狙いがはずれたもの（穴の中に落ちなかったもの）もたくさんある（矢印）。ずっとハチの方を観察していたので、突然の寄生バエ登場には驚いた。



Ⅲ. 咄嗟に寄生バエにピントを合わせる

クモが穴の奥に消えた後も、寄生バエはハチの巣穴に幼虫を投下し続けた。産み落とした幼虫のうち、運よくクモに届いたものだけが育つのだろう。なお、「産卵」ではなく「産仔」と書いたが、ニクバエは母体内で子が孵化するため（卵胎生）、産むのは卵ではなく幼虫（ウジ）である。おそらくこの巣穴の中では、モンクモバチの子よりも先に寄生バエの子が育ち、獲物のクモを横取りする。そして、ハチの子もろともハエの栄養となる。ハエの子にとって「早く成長すること」が重要であるため、卵胎生は理にかなっている。



Ⅳ. 産仔後にハチを見守る寄生バエ

モンクモバチが巣穴を埋める作業を寄生バエは近くですっと見ていた（矢印）。この理由は全く分からない。寄生が成功したかどうかをこの段階で知ることにはできないし、長時間居座る意味が分からない。ハチが次の獲物を狩るところまで付きまとうつもりなのだろうか。だとしたらかなり厄介なストーカーだ。



寄生バエ拡大（ニクバエ科ヤドリニクバエ亜科?）

見た目は普通のハエ。ハエの仲間（双翅目）は種数が多く、見た目が非常に似ているので、種類を調べるのが難しい。とくに狩りバチの獲物を横取りするようなタイプはまだ生態が分かっていないものが多いらしい。